

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：茅野 牧夫

<b>事業名</b> ：一般国道414号 伊豆縦貫自動車道 河津下田道路（I期）	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 中部地方整備局			
<b>起終点</b> ：自：静岡県下田市箕作 至：静岡県下田市六丁目	<b>延長</b> ：約6 km				
<b>事業概要</b> ： 伊豆縦貫自動車道は静岡県沼津市岡宮を起点とし、伊豆の国市、伊豆市等の主要都市を経て下田市へ至る延長約60 kmの高規格幹線道路です。 本事業の一般国道414号河津下田道路（I期）は、下田市箕作を起点とし、下田市六丁目に至る延長約6.0 kmの道路であり、交通渋滞の緩和、救急医療への貢献、緊急輸送道路の機能強化を目的に計画された道路です。					
H10年度事業化	H-1年度都市計画決定 (H-1年度変更)	H-1年度用地着手	H-1年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	260億円	<b>事業進捗率</b>	9%	<b>供用済延長</b>	0 km
<b>計画交通量</b>	10,000台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体)	<b>総費用</b> (残事業/事業全体)	<b>総便益</b> (残事業/事業全体)	<b>基準年</b> ：平成25年	
	1.7	183/212億円 〔事業費：167/196億円 維持管理費：16/16億円〕	359/359億円 〔走行時間短縮便益：286/286億円 走行経費減少便益：52/52億円 交通事故減少便益：22/22億円〕		
<b>感度分析の結果</b> ： 【事業全体】交通量：B/C=1.5~1.9(交通量±10%)    【残事業】交通量：B/C=1.8~2.2(交通量±10%) 事業費：B/C=1.6~1.9(事業費±10%)                      事業費：B/C=1.8~2.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3~2.1(事業期間±20%)                      事業期間：B/C=1.8~2.1(事業期間±20%)					
<b>事業の効果等</b>					
①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・並行区間等に、当該路線の整備により、利便性の向上が期待できるバス路線（東海バス）が存在する。					
②都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携がある。					
③国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる。					
④個性ある地域の形成 ・主要な観光地（下田市、南伊豆町などの南伊豆地域）が存在する。					
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（順天堂大学医学部附属静岡病院）へのアクセス向上が見込まれる。					
⑥災害への備え ・緊急輸送道路の代替路線を形成する。					
⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。					
⑧生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> ： 地域からの頂いた主な意見等： 静岡県他8市8町4団体が構成する伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会が早期の全線開通を要望。 知事の意見					

本事業は、下田市街地における観光交通による慢性的な交通混雑緩和とともに、大規模災害時等における緊急輸送路としての機能確保、医療施設への救急患者搬送時間の短縮など、当該地域及び伊豆地域全体の発展と住民の安全・安心のために欠かせない道路です。

また、近い将来の発生が危惧されている南海トラフ巨大地震等により甚大な被害が想定されている伊豆地域にとって、伊豆縦貫自動車道は、緊急輸送路としての機能を担う「命の道」であり、早期の全線供用開始に向け、河津下田道路（Ⅰ期）についても、コスト縮減の徹底と整備推進をお願いします。

また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き、県、地元市町と十分な調整をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・夏期観光期には観光客が増え、主要渋滞箇所である中島橋交差点等で顕著な渋滞が発生。（中島橋交差点；最大渋滞長2.7km）
- ・下田市には、第二次救急医療施設へ15分以内で到達できていない地区が存在。
- ・国道414号は浸水が想定されており、地域唯一の広域防災拠点への物資搬入や防災拠点から各市町への物資搬送が懸念。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は9%、用地進捗率は0%。
- ・下田北IC（仮称）～下田IC（仮称）間（L=約6km）は、都市計画・条例アセス手続き中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・下田北IC（仮称）～下田IC（仮称）間（L=約6km）は、概ね10年程度の開通（2/2）を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

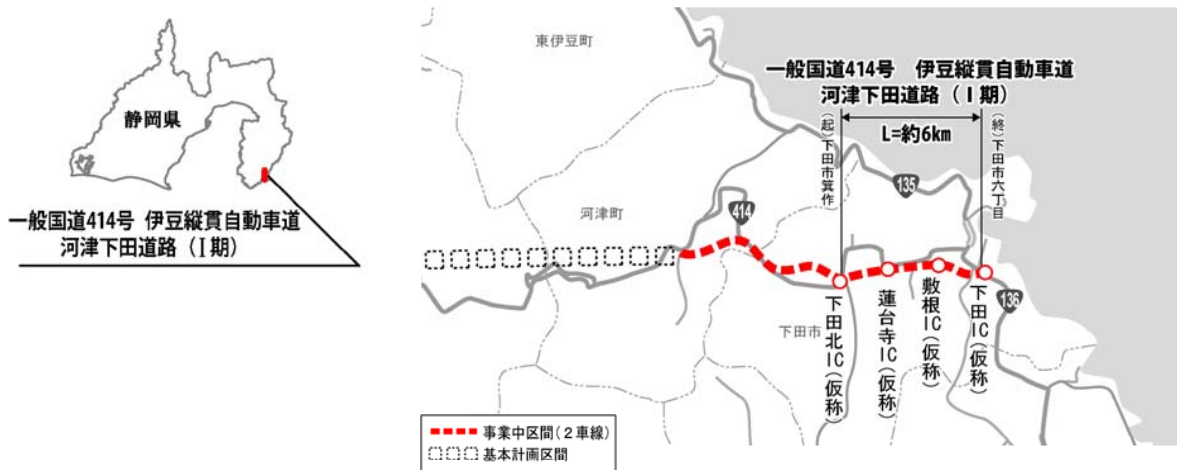
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。